

## ジョージア (グルジア) 便り その36

## 『ニューヨークのスターから学ぶもの』

文 高野陽年 text by Yonen Takano

メトロポリタン歌劇場で  
マルセロ・ゴメスと共に。

つい3日前まで僕はカモメが舞うヘ  
ルシンキの空を眺めていた。劇場の海  
外公演でエストニアを経由し、季節外  
れの大粒の雪が舞う白夜の夕景を噛み  
締めていたのだ。しかし今僕が見上げ  
るのは、どこまでも高くそびえ立った  
マンハッタンの摩天楼で、うだるよう  
に暑い街を半袖で闊歩している。

メトロポリタン歌劇場(通称メット)  
の中のアメリカンバレエシアターのス  
ターダンサー、マルセロ・ゴメスを頼っ  
て僕はニューヨークにきた。ゴメスは  
僕が以前踊っていたサンクトペテルブ  
ルグのミハイロフスキー劇場に度々客  
演していて、学生時代から袖幕から垂  
涎の思いで眺め憧れていたダンサーで  
ある。

その彼と先の日本公演で親しくなり、  
今回彼が上演権を持つ作品のリハーサ  
ルをメットで行う次第となった。この

夏日本の新国立劇場で僕が踊ることが  
できるように手筈を整えてくれたのだ。

この作品は世界的振付家ヨルマ・エ  
ロが振り付けた長いソロである。10分  
近く舞台上で一人となり、体力的にも  
厳しく、観客を飽きさせないためにも  
相当な魅力を持って踊らなくてはなら  
ない。ゴメスは見本として顔色ひとつ  
変えずに踊り、しかも手先まで神経が  
行き届いた、抜け目のない踊りを僕の  
前で披露した。自由自在に動く背中  
は物語を紡いでいるようだ。華やかなテ  
クニツクに秀でたダンサーは多くいる  
だろうが、なにがその他大勢のダンサー  
とスターダンサーとを区別するのだら  
うか。僕なりにスターダンサーの中の  
トップと言われるゴメスから多くを吸  
取しようと、瞬きを惜しんで観察して  
いると、明らかに『目力』が強いことに気  
づいた。舞台上はもちろん、スタジオの  
中での練習の時から何かを訴え、惹き  
つける眼差しを持つて稽古に100%  
の力で臨んでいるのだ。歌舞伎の世界  
でも流し目が上手いものが一流と持て  
囃されるように舞台芸術は目が命なの  
だと痛感した。

それにしてもアメリカはスケールが  
おおきい。メットがあるリンカーンセ

ンターは、州立劇場や音楽院の劇場、  
管弦楽団のコンサートホールからドラ  
マシアターまでがワンプロックに集  
まった劇場集合体で、それぞれの劇場  
の観客を合わせるとその区画に1万人  
もの芸術愛好家が一晚で集うのだ。メ  
ットの朝のトレーニンングクラスも、今ま  
で僕が受けてきたロシア式や旧ソ連の  
ものとは比べ物にならないほど自由な  
雰囲気、逆に驚く  
ほどである。

ニューヨークカーは  
せっかちなのか、歩  
道の信号は全く見な  
いし、信号がない場  
所もほとんど渡って  
いく。僕も型にはま  
らない彼らのように  
目的に向かってなり  
ふり構わず前進して  
いこう。そしてジョ  
ージアでもどこでも僕  
の目はキラキラ、い  
やギラギラと鋭い目  
力を持つていかに  
てはならない。

## Profile

2011年にロシアの名門ワガノワバレエアカデミーを卒業し、世界的振付家ナチョ・ドゥアトの指名を受け外国人初の正団員としてロシア国立ミハイロフスキー劇場に入団。主にドゥアト作品で活躍した後、2014年6月より世界的に絶大な人気を誇るバレリーナ、ニーナ・アナニアシヴィリに引き抜かれグルジア国立トビリシ・オペラ・バレエ劇場に移籍。現在はその団の主要なダンサーとして国内外の公演で劇場を牽引している。立教大学中退。

